



- ◇特集 図書館のつどいの場としての機能を考える
- ◇Report 読み聞かせ交流会講演会

特集 シリーズ 多様なニーズに応える図書館 3

図書館のつどいの場としての機能を考える

今回の特集では『図書館のつどいの場としての機能』を考えようと、けやき事務局を中心としたメンバーで座談会を開き話し合いました。左京図書館で展開される集会サービスにはおたのしみ会のように京都市のどの図書館でも行われているものの他に、映画上映会や講演会、飾りを作る会などがあります。また、'あかちゃんに絵本を'サポーター活動のように場を設定して来館者にサービスを行う活動や、学習会なども開かれています。これらは左京図書館主催、けやきとの共催、けやき主催と形式は様々ですが、どれも市民と図書館が協力して行う協同事業であることも、京都市図書館の中では特徴のあることです。

座談会を通して、公共図書館でのつどいの機能と意義を一緒に考えてみましょう。



座談会発言者（発言順）

永井麻里	図書館友の会けやき代表
奥坂恵子	けやき事務局
中川徳子	けやき会員・'あかちゃんに絵本を'サポーターメンバー
明石加代子	けやき事務局
増井和子	けやき事務局
岩崎れい	けやき事務局、京都ノートルダム女子大学助教授・図書館情報学
司会 島崎真紀子	けやき事務局

◆2007年2月5日 左京図書館階上会議室にて

島崎（司会）初めに、左京図書館でつどいの場として現在あるものを具体的に挙げながら、その現状と得られたものを皆さんに伺います。その後地域の情報センターである公共図書館のつどいの場としての意義を整理し、私たちけやきの活動も踏まえて、左京図書館でのつどいの場を展望したいと思います。

まず、講演会について。今年は2月3日に開催しましたね（7頁の報告参照）。

●講演会

永井 左京図書館での講演会をけやきが提案したそもそもは、図書館には資料の貸出以外にも色々な機能があって、色々なことができるよ、ということアピールする狙いがありました。当時京都市の図書館では、貸出以外の大人向けの活動が利用者の目に見える形では余りなかったの。

島崎 初めての講演会は2003年でしたね（表1）。

永井 講演会を企画するに当たって、地元の色々な活動をされている方のお話を聞いてお互いに分ち合えるとよいのではないかと考えました。左京にお住まいだけけれど、アフリカのゴリラの話であったり、今回ですと

島崎 ベトナムの地域の人々の支え合いの話の中で「様々な活動をしている人が交流することで、よりよい地球がつけられる」という言葉が印象的でしたね。

永井 そうそう、どの講演会でも人と人のつながりの大切さを実感することができて、図書館の地域のつどいの場としての役割を生かす企画であったと思います。

●映画上映会

島崎 映画上映会は、地域の方の楽しみ場となっているようです。

奥坂 子ども向けだけでなく、大人向けの企画もということで映画上映会は始まりました。最初は名画が選ばれてい

表1 左京図書館での講演会（1999年移転開館以降）

		講師
2003年1月	ゴリラの絵本をつくる	山極 寿一氏
2004年1月	うたっておどってアフリカ！アフリカ！！	伏原納知子氏
2006年2月	読み語り「みなまた 海のこえ」	金森 順子氏
2007年2月	「豊かさや貧しさ」の中の子育て—ベトナムからの報告	板東あけみ氏



たので、高齢の方、若い方、学生さんなど様々な方が来られて、いいなあと思っていたのですが

島崎 著作権の問題で、今はいわゆる名画は上映できず、著作権をクリアした作品から選んでいるのですね。

永井 会場は会議室ですから、映画を見る条件としては悪いけれど

奥坂 私の母は、以前は楽しみにして皆勤でした。遠くまで行かなくても、地域でそういうものに触れられるのがいいですね。

永井 やっぱり大きい画面で見て

奥坂 そう、同じ空間に身を置いて映画を楽しむっていうのがいいのでは。

永井 見終わった後、お年寄りが「初めてのデートで見た映画でした」とか

奥坂 知らない人同士でも、よかったですね、とか言いながら帰って行かれる、また次を楽しみにされて。

永井 そういう反応は名画シリーズのあとの百名山シリーズの時もありましたね。

●おとなのための語りを楽しむ会と絵本学習会

島崎 大人向きということで、おとなのための語りを楽しむ会は、他では余りやっていない催しですね。

奥坂 そうですね。最近、子どもは児童館や学校などでお話（語り、素話）を聞く機会がありますが、大人は案外ないものです。

島崎 心が洗われるような時間だった、お話を楽しんでとても癒された、そんな参加者の声がいつも寄せられますね。

奥坂 目で読む楽しさとは全然違う、耳から聞いてというところがいいのでしょうかね。

島崎 そういうひとときが遠くへ行かなくても地域の中で味わえるっていうのが、とてもいいと思います。

永井 図書館がそういう企画をすることで、同じことに興味を持っている人が、出会える。案外すぐ近くで同じ関心のある人がいたということに。

島崎 では同じ関心ということで、絵本学習会について

永井 2003年秋から保健所で絵本ふれあい事業（京都市版ブックスタート）が始まり、その活動をより効果あるものにするために、左京図書館でもあかちゃんに絵本を「サポーター活動」が始まりました。それらの活動の参加者からもつと絵本のことを学びたいという声が上がリ、そのための学

びの場は図書館に提供して頂くのがふさわしいのではと、けやきが左京図書館に提案し、絵本学習会が始まりました。毎月学習会を重ねる中で、左京図書館、保健所、学校、とそれぞれの場で絵本に関わる活動をしているボランティアの合同研修の場ということになりました。結果的には色々な場で子どもと本をつなぐ活動をしている人たちが図書館に集えて、意義があったのではと思っています。

島崎 何人くらいの参加ですか。また地域的には

永井 多い時は12、3人。左京の方が多いですが、北区、山科区などの方も。なお毎回学習会の報告を左京図書館で印刷して一部を図書館に渡し、司書さんに回覧して頂いています。司書さんも参加していただけたらいいなあとも思っています。

●読み聞かせ交流会

島崎 昨秋に開催された左京南支部の小学校の読み聞かせボランティアの方を対象にした、交流会について（6頁の報告参照）。

中川 このところ小学校で読み聞かせボランティア活動が広がっていますが、読んであげたいという思いはあっても、何を讀んだらいいかわからない、と困っておられる現状もあって。そのような声をけやきが図書館に届けて、昨年、そういう活動をされている方々の交流会が開かれたのです。これがたいへん評判がよくて、今年は館長さんからぜひやりたいということで、3回連続でやることになりました。

島崎 今年も参加者はとても喜んでおられて。準備は？

永井 左京図書館浅田館長さん、長尾副館長さん、山口司書さんとけやきのメンバー5、6名とて話し合いを持ちました。事前に2回、毎回終わった後に反省会と次の準備という形で、計5回ほど。1回目の情報交換の時のために事前アンケートを取るとか、そういうこちらの要望を図書館が受けとめて下さって。

中川 3回目では各グループにけやきのメンバーが入って、一緒に勉強する立場からお世話させて頂きました。

永井 このような形は中川さんが以前住んでおられた大阪府松原市での経験をアドバイス下さり、それが大変参考になったんです。

島崎 中川さん、そのご経験をお話下さい。

中川 松原市民図書館というのは市民運動でできた図書館

なんです。図書館ができるまでは文庫が図書館的な活動、例えば講演会を開いたりすることも含めて、みんなやっていたのですが、図書館が1977年にできてからはそれも図書館の事業として位置づけられました。このように松原市民図書館では図書館と市民が協同事業をすることが前提にあります。本来、図書館は市民と共に創っていかないと来ません。館長も市民も、そのあり方を求めて共同事業をやってきました。松原市では職員全体がそれぞれの事業に参加し、それが市民のニーズを知る場のひとつになりました。

島崎 例えば？

中川 子どもの本の協同事業をする場合、常に職員と市民が一緒になって企画運営をする。講師交渉なども一緒にすることで、職員も事業企画が身近になり学び楽しめます。それが今回左京図書館で同じような形で、館長さんや職員さんとけやきのメンバーと一緒に企画できて、理想的だったなと思っています。

永井 これまでの積み重ねで、左京図書館とけやきが協同で何かする折、次第に年度計画の段階で一緒に検討できるようになって来ました。この交流会も年度計画の時点で、1回では足りない、最低3回して下さいという要望を出したら受けて下さって。最初の案内は夏休み前に校長会で館長さんが話され、9月から中身を検討しました。

島崎 この交流会は小学校での読み聞かせボランティア活動のネットワークづくりに貢献したと言えますね。

永井 お互い元気づけられるっていうか。

島崎 地域の読書活動のネットワークの真ん中に図書館がある、というのはすごくいいと思います。

● ‘あかちゃんに絵本を’ サポーター

中川 こんな風に左京図書館の取り組みを聞いているといい活動ができていますね。赤ちゃんの活動の方は、松原の図書館が左京図書館の活動を参考にして始めました。

島崎 そうなんですか、ではそのことを。

中川 まず、左京図書館の赤ちゃんに関わる活動についてお話ししますと、左京保健所の絵本ふれあい事業にボランティアとして参加して行く中で、子どもと本の出会いの機会を8ヶ月検診の時だけでなく、やっぱり日常的に利用できる図書館がサポートせんとあかんのとちがう？という話が出ました。それをけやきから前任の増田館長さんに提案してもらった中で、館長さんが平日の午前中絵本コーナーを赤ちゃんに優先的に開放しましょう（赤ちゃん優先タイム）という画期的なことになったんです。

さらに、赤ちゃんを抱えたお母さんたちには本との出会い

についてもアドバイスが要するというので。それで2004年から木曜日の午前中に絵本コーナーで「‘あかちゃんに絵本を’ サポーター」の活動が始まったんです。

島崎 その日は子育てや子どもに絵本を伝える経験のある方々がボランティアとしてエプロンを付けて活動されていますね。

中川 ええ、そういうシステムができたので、私たちも保健所の絵本ふれあい事業で、「左京図書館に行ったら、こんなにして赤ちゃんが大事にされるのよ、木曜は私たちも待っているから」と言えるので、絵本ふれあい事業が活かされていると実感できるんです。もう3年たつので、子どもやお母さんが成長して行かざる、それが見える活動になって来ているんです。そんなことを松原市民図書館の職員に話をしたら、司書さんが保健所に出向くだけでは今ひとつ効果を実感できていなかったときだったので、参考になったんですね。「とても左京図書館のようににはできません」と言っておられます。できることをできるところからと、月一回の活動やそうです。

永井 左京図書館で続けているこの活動のスタンスは、赤ちゃん向けお楽しみ会ではなく、個々のお母さんたちの絵本選びを手伝ったり、要請があったら一緒に絵本を読んだりということなんです。ここでほっこりと時間を過ごして、来ているお母さん同士が情報交換をしたり、お母さんと赤ちゃんたちの出会いの場になっています。情報がちゃんと行き渡るように、こういった赤ちゃんに対する独自の取り組みも紹介したチラシを図書館に作成してもらい、保健所の絵本ふれあい事業の折にボランティアから保護者の方に手渡しています。

● おたのしみ会と絵本コーナーの飾りを作る会

島崎 おたのしみ会に話を移しましょう。月に一度のおたのしみ会は子ども向けで

永井 図書館主催ですから、私たちボランティアは司書さんに協力という形です。ボランティアメンバーと司書さんから各1名2人で毎月担当しています。

奥坂 これからも司書さんと相談しながらやって行きたいと思います。

永井 司書さんから今年度のおたのしみ会はこういう形だと方針を出して頂いて、それに私たちも提案をしながら一緒にやって行けたらいいですね。

島崎 参加している子どもたちは

奥坂 地域の子どもの大半で、何度も来てくれる親子も見かけますね。

島崎 絵本コーナーの飾りを作る会は

明石 これは子どもから大人が一つのものを作るという活

動で、指導して下さるボランティアの筒井さんと酒井さんがテーマやアイデアを考えて、用意して下さいます。図書館は材料提供などで協力されています。その場でわいわいと作るということで、大人は子どもの作るもので癒されたり、その場にいたらとても楽しめます。

永井 それはものづくりならでは、ですね。年齢差は関係なく、2、3歳の子が来ることもあるし、学童クラブの子が来ることも、またほとんど大人ばかり、という回もあったり。色んな年齢の者が一つのテーマでものを作って。子どものすぐくおもしろい発想に刺激を受けることもありますね。

奥坂 ほんとにね、心が解放されるような感じね。

永井 そして作品が図書館で披露されているのが、図書館に親しみを持つことになって。これがこの活動の最初の目論みの一つでもあったんですが。

明石 私は自分が作ったものがあるそこにあるなって、必ず見ますし、大人でもとても親しみがわくと思います。

●学習会

島崎 学習会は図書館のことをもっと勉強しましょうということで、開いてきましたね(表2)。けやきの活動をする上で、私は図書館について専門知識がなかったので、一つずつ学ぶことで、活動の方向も探ることができたと思います。

増井 この図書館の中だけで活動していると他が見えないでしょう。自分たちのやっていることの位置づけもはつきりしないし、刺激もないし。そこで、他の図書館の見学会とか、交流会とかそういう学習会は必要だと思います。

永井 やっぱり自己満足で終わってはいけませんね。

島崎 学習会で一緒に学ぶことで、お互いの絆も強くなるし、これを重ねることでけやきの中でも共通の知識の基盤ができましたね。

●公共図書館でのつどいの場としての意義とは

島崎 ここまでで、左京図書館で行われている様々なつどいの効果として、知識を得たり、図書館に足を運ぶきっかけになったり、愛着をもつこと、図書館の機能を理解することが挙げられます。また、地域の人と人の絆を深め、ネットワークづくりにも貢献していることが見て取れました。ところで、公共図書館は地域の情報センターであり、図書館の使命には集会サービスというものがあって、映画会やお話会がある、ということを経験した。2004年の学習会で学びま

したが、その折講師をして下さった岩崎さんに改めて集会サービスについて伺いたいのですが。

岩崎 戦後位から、集会サービスは図書館の柱の一つとして位置づけられていたと思いますが、その位置づけはだんだん変わって来ています。元々集会サービスは啓蒙的な意味合いが強かったようですが、最近は生涯学習時代、高度情報社会と言われる中で、図書館が一方的に市民を啓蒙するという形ではなくて、市民の学習ニーズや情報ニーズにどう応えるのかという意味合いが強くなって来たと思います。それで今後はどういうサービスができるのかを考えていくのだと思いますが、同時に学習ニーズや情報ニーズだけではなく、子どもの読書支援や多文化社会に対する対応というものも必要になって来たような気がします。

ここでやっている集会サービスにも色々ありますが、やっぱり今十代がいちばん図書館に来ないので、その十代に対して集会サービスで何かできないかなと。まず呼び込まないといけないのですが、なかなかむずかしい。むしろ図書館から学校へ出かけるということをもっと充実していくことから始めなければならないのでは？ そんな風に、年代などでどの層へサービスが欠けているかというのを見ていく必要があると思います。

島崎 私たちは学習会などを通じて、図書館には色々なサービスがあるということを知りましたが、一般にはなぜ図書館で映画会や講演会までするのか、別になくてもいいのでは、と思われる方も多いと思います。左京図書館でいうと、左京区近辺は、大学などがたくさんあって、お金を払えば専門的なことも近くで学べる、という特徴もあります。そういう地域性も踏まえた上で、左京図書館をつどいの場として考えた時にその意義とは。

岩崎 無料でサービスが提供されるということはお金の余裕がなくても、全ての人に文化的な活動が提供されるということで、そこに公共施設の意義がありますね。同時に、つどいの場というものを公民館や博物館などの他の施設と同じような活動の場と考えてしまうと、図書館で実施する意義がなくなってしまいます。図書館の専門性の特徴をどこに捉えるかをはっきりさせ、それに準じた形でのつどいの場でない。ですから、つどいの場としての役割を果たすということは、むしろ図書館が公共施設だから持っている役割だと思うんですね。公共施設は色々あって、その中で図書館は何を担うのかというのは、公民館などとは一緒ではないということです。公民館には公民館の、図書館には図書館の役割があるということを考えて行くといいのかなと思います。

島崎 左京図書館で今展開している集会サービスは、図書

表2 けやき主催学習会 講師

年次	内容	講師
2003年	市民とともに作る	
	図書館をめざして	福山恭子氏
2004年	今、市民が願う図書館とは	岩崎れい氏
2005年	大学図書館の機能と役割	岩崎れい氏 山中知佐氏

館の専門性が生かされていると言えますか？

永井 そう思います。映画上映会や講演会は、資料を提供することと同様に文化・情報を市民に提供するという図書館の基本的な役割を担っているものと言えるでしょう。最近まで京都市の図書館でこのような活動がほとんどなかったのは、各図書館に集いの場としてのスペースが設けられていないことと、京都市には一部の文化事業に関心が高い市民のニーズに応える大学や美術館などの文化施設が数多くあって講演会などはそちらにおまかせという風潮があったのでは。

島崎 先程の無料でサービスが提供されるということについて、もう少し聞きたいのですが。

永井 無償で本が借りられる、無償で図書館が提供するサービスを選べる、ということが公共図書館の大きな意義ということについて最近こんな経験をしました。ある子どもに「図書館で本を借りるとき、どうしてお金を払わなくてもいいの？」と聞かれたんです。これにはショックと、なるほど、と両方感じたのですが。その子はよく図書館も利用しているし、家でも沢山本を買ってもらっています。こんな風に本に親しんで、図書館も利用している子は無償であるという意義にはピンと来ずについて、一方で、経済的にさほど恵まれておらず、家庭でも本に出会う機会が少ない、そんな本来公共図書館を利用して初めて本に出会える子が実は公共図書館に行くチャンスもなく、知る権利を行使できずにいる。公共図書館の無償性の意義から子どもたちに伝えて行かないといけない時代なんだと改めて思っただけです。「公共図書館は、経済的条件をはじめあらゆるハンディに拘らず誰もが平等に情報を得ることができるための場なんだよ」ということを、今まで以上に図書館自身がちゃんと伝えなければならぬと思います。

中川 それは図書館の根幹ですよ。全ての人に平等に知る権利を保障していくのが図書館の役割ですから。

永井 そういう役割を色々な形でアピールする必要があると思うんです。その意味で、アピールする場所としてのつどいというのは図書館でしかできないし、図書館がその存在意義そのものを伝える場として、色々な興味関心、ニーズのある人に図書館の場を提供することが大事なのではと思います。

島崎 それにも私たちの様な草の根の活動と公共図書館という公の組織が、上手に力を合わせて行ったらすごく広がりができると思うのですが。

中川 私たちはこうした図書館との協同事業について、市民活動だと位置づけしています。大阪の公共図書館で、協同事業のない市はありません。図書館への市民参加の活動

には四つの形があって一つは実際に市民が本を借りること。それはこういうものを必要としているというニーズを図書館に伝えることになるわけです。もう一つは図書館協議会で発言すること。それと協同事業だと思うんです。今ひとつ大切なことはけやきのように必要なことは図書館に要望していくということです。実際に職員と市民が一緒になって活動することで、中身を作っていく。そのことはとても大事で、それがなかったら図書館は独善的になって市民の支持が得られなくなるのではないかと思います。市民に利用され、なくてはならない存在に図書館がなってこそ本物ではと…。

●けやきの活動

島崎 その協同事業はけやきの活動の大きな部分ですね。

中川 けやきとしては今自分たちがやっていることは図書館づくりの大きな意義のあることをやっているんだと、捉えるべきだと思うんですよ。意義がありまた、それが望みでもあると。

永井 映画上映会の案内ボランティアでも義務感からやるのではなくて、自分も映画見たいし、映画上映会が左京図書館でずっと続いてほしいから、そのために自分がどう関わるかと考えてボランティアとして手を挙げよう…

中川 それでいいと思うんですよ、例えば映画上映会でも映画を見に来た人にもっと呼びかけて一緒にやりましょうと、そういう人にも企画に入ってもらって。そんな風に広がっていければ。

岩崎 けやきは友の会なので、自分たちが大切だと思うことを重点的にやっていくことも大事ですが、それだけではなくて、図書館サービス全体から見てどういうニーズが足りないかということも考えながら、図書館に伝えていく役割も大きいかなと思います。

永井 そのニーズに対して具体的な活動を必ずしもするのではなくて。

岩崎 しなくてもいいので、それを図書館に伝えて行く。ニーズを掘り起こして図書館に伝える、パイプとしての役割、また図書館を刺激する役割があるのではと思います。

島崎 けやきの立場から見ると、集会サービスへの関わりは図書館との協同事業として大いに意義があることと再認識しました。今日はけやきがこれから取り組んで行ったらいいな、と思えるヒントもたくさん出てきました。こうして集って話し合うことでまた新たなものが生まれていくのですね、これもつどいの効果かもしれません。これで座談会を終わります。



絵本のすばらしさを伝えるために

左京図書館主催の左京南支部の小学校の読書ボランティアの交流会が、今年度は11月10日、17日、24日の3回にわたり開催されました。9小学校で子どもたちに主に絵本を読む活動に取り組むボランティアが、各回30人前後延べ90人が受講しました。毎回終了予定時間になっても話は終わらず司会の館長さんを困らせる程！大いに熱く盛り上がりました。

京都市図書館では、京都市子ども文庫連絡会と共催で全20館を巡回する読み聞かせ講座が年4回開かれています。しかし、次回左京図書館で開かれるのは現状のペースでは5年後になり、また左京南支部では学校で子どもと本に関わるボランティアが続々と増えていることから、地域独自の研修会を毎年実施してほしいと、けやきから左京図書館に要望しました。

これに館長さんが積極的に応じて下さり、2005年11月に第1回「読み聞かせ」交流会が開かれました。ところが、1回2時間では参加校の自己紹介だけで時間が過ぎてしまい、予定していた司書さんやボランティアが絵本を読みあうことはほとんど出来ずに終わってしまいました。それでも、それぞれの学校で活動するメンバーが一堂に会して情報交換できたことは参加者にも好評で、「ぜひ来年も」の声が多数あがりました。

そこで今年度は実施回数を3回に増やし、次のようなプログラムで行なわれました。

第1回(11/10) 交流会

・事前に実施したアンケートの報告をもとに活発に質疑応答・意見交換

アンケートは、おはなし会(日時・場所・対象・内容・広報)や読書ボランティア(構成人数・活動内容・グルー

プの位置づけ)などについて各校の現状を記入してもらいました。

各校の活動の実態もわかり、「本選び」や「ボランティアの募集」など具体的な課題に対する取り組みや工夫も多数紹介されました。

第2回(11/17) 講義と質疑応答・意見交換

・絵本入門

講師は中川あゆみさん(左京図書館絵本学習会)。たくさんさんの絵本を例に絵本の魅力や特性を具体的にわかりやすく話していただき、「子どもたちに絵本を読む」ことの意義を再確認できました。

・集団に読む場合の絵本の選び方・読み方

左京図書館司書の山口文子さんが講師。

山口司書の絵本の読み語りに関心した後、活発な質疑応答が続きました。

第3回(11/24) 小グループに分かれての実践交流

7・8名のグループに分かれ、全員が持参した絵本について「なぜこの本を選んだか」を話した後、実際に子どもたちに読んでいするように絵本を読みました。それぞれの個性や工夫が生かされた読み語りが続き、感想やアドバイスを出し合って話は尽きませんでした。

最終回にけやきが実施したアンケートにはほぼ全員の参加者が応じて下さり、図書館への感謝とともに「今後もこのような交流会・学習会の実施を」という声が数多く寄せられました。「小学生に絵本を読む」という同じ活動をしているもの同士が、ざっくばらんに交流し情報交換する場が切望されていることを再認識しました。(永井)

交流会に参加して

第1回目、小学校間で活動の情報交換をしました。皆さんとても熱心で、ベテランの方中心に選書や読み合わせをきちんとされている学校もありました。

第2回目の講義で中川先生が絵本の魅力をたくさんのお話とともに楽しくわかりやすくお話ししていただき、私自身、益々絵本が好きになり、子供達と楽しんでいくために少しずつ絵本に付いて学んでいきたいと思いました。

山口先生からは、選書や読み方のお話があり、選書に悩んでおりましたが、読む人数と絵本の大きさの関係など実践もしていただいて、良い絵本を丁寧に読ん

でいただく心地良さを味わうことが出来ました。

第3回目で、小グループに分かれての実践交流で皆さん選書や良い絵本を読むことに対する熱い思いがあり、読むこときくことの魅力に引き込まれた一時でした。

今回素話にくわしい方もおられましたので、次回は、素話についても詳しく学びたいです。

このような素敵な交流会を開催していただいた館長さん、山口先生、中川先生に感謝しております。

北白川小学校 吉村陽子



「豊かさとは貧しさ」の中の子育て ベトナムからの報告

講師 板東あけみ氏

身近な図書館が地域の文化や情報の発信の場となることを願い、今年度も、けやきと左京図書館共催による講演会を行いました。

講師は地元左京区在住で、「ベトナムの子ども達を支援する会」を立ち上げ、16年にわたってベトナムの医療・教育・福祉分野の行政のシステム作りに協力してきた板東あけみさんです。

小学校の育成学級担任として障害児教育に力を注いできた板東さんが、他の国の障害のある子どもは、どのように暮らしているのか知りたくてベトナムへ行ったことがこの活動のきっかけだそうです。

母子保健改善のために母子健康手帳を紹介したり、医療器材の購入を援助したりしてきたけれど、一番重要なことは、ベトナムの人たち自身が自分たちの国を何とかしようとしているかということ。ベトナムでは「子どものための活動国家計画2001-2010」で乳児死亡率を3.67%から2.5%以下とするなど具体的に数字を挙げて着実に計画をすすめています。また、地域にボランティアワーカーがいて、若いお母さんに寄り添い子育てを支援しています。ボランティアワーカーは診療所と交流したり、新聞が配布され常に学習・新しい情報が伝えられたりする体制ができ、そして何よりも、ボランティアワーカーの人たちは若いお母さんの役に立ちたいという思いがあふれ、笑顔がすてきで、とても生き生きとしています。

日本で起きている、親が子を殺したり、子が親を殺したりというニュースを、ベトナムの人たちは「どうして

そのようなことが起こるのか理解できない」と言うそうです。またベトナムの子どもは学校へ行けるのが楽しいと言います。聞き取り調査で母親と話している間、子どもたちは母親のそばでじっと静かに待ち、また、三人兄弟にお菓子を少し渡したとき、一番上の姉はお菓子を割って大きいのを一番下の子に渡したことも。学校へ行けることが当たり前ではない社会、物を分け合わないわけにはいかない、厳しい暮らしの中での豊かな子育て。このようなベトナムの子どもたちの姿から何か大切なものが見えてきたように思いました。板東さんは、ベトナムの子どもたちがどのような環境で育っているかを知ること、日本が豊かになることで失ってしまっただけのものが見えてくるのではないのでしょうかと、私たちに宿題を出されました。

アフガニスタンへも行かれた板東さんは「子どものために何ができるのか」という課題の前に国の主義や宗教は関係ない。そして、元気の源は、人に会うことが好きだと言うことです」ときっぱりとおっしゃいました。温かく元気になるお話でした。(田中)

参加者の感想から

- ・バイタリティあふれる話を聞いて、感動しました。親子関係についても、考え、反省させられることが多かったです。ベトナムの子どもを大切に作る姿勢にも感動しました。
- ・子連れで来て、良かったです。今だからこそリアルタイムで子育てへの思い、考えが何えて今後に反映できそうです。とても心が温まりました。
- ・何か今までに置き忘れて来た大切なものに気づかされました。

けやきの 本棚 24

わたしの
おすすめの本

魔女モテイ

柏葉幸子作
講談社 04年

ごく普通の小五の女の子、紀恵と、ピエロのニドジ、そして魔女のモテイが、家族になる話です。紀恵もニドジもモテイも、他に行くところがないので集まっただけです。けれど、いろいろな事件をこえて、三人は本当の家族のような信頼や絆で固く結ばれていきます。この本は、「家族って何なのだろう」と考えさせられる一冊です。(夕日紫・岡崎)

西遊記上・中・下

呉承恩作 伊藤貴磨訳
岩波少年文庫 01年

人形劇やアニメ、ドラマでおなじみですが、私はこの歳までもとのお話を知らないでいました。みなさんをご存知でしたか。何と壮大で素朴。何

かと怖がりの三蔵法師、努力家の孫悟空、騒動を起こす猪八戒、そんなに活躍できない沙悟浄。個性的な妖怪とその元主人の神様仏様達。煌びやかで朗らかな物語をぜひ読んで下さい。

(でこちゃん 下鴨)

静かなる

ホイッスル

柴谷晋著

新潮社 06年

“音のない世界”で激しくぶつかりボールをつなぐ。デフラグビーは聴覚障害者のラグビーです。初のデフ世界大会でニュージールランドに勝利した日本代表チーム、そしてデフチーム発足十年の年に花園の全国大会に出場した難聴の高校生。彼らとその周辺を丁寧に取材してまとめられた一冊からは清々しい達成感が伝わってきます。(Tさん・左京図書館)





けやきの活動 06年11月末～07年3月

- 11/10.17.24 「読み聞かせ」交流会
打ち合わせ・反省会
- 11/27 ニュースレターNo.24印刷発送
- 12/4 絵本コーナーの飾りを作る会
- 12/23 冬のスペシャルお楽しみ会
- 1/月上旬～ ニュースレターNo.24編集
- 1/11 講演会講師と事前打ち合わせ
- 1/12 講演会チラシ印刷発送
- 1/26 左京区ボランティア連絡会に出席
- 2/3 講演会「豊かさと言しさ」の中での子育て-ベトナムからの報告 >開催
- 2/5 ニュースレターNo.24特集座談会
- 3/1 第21回映画上映会

冬のスペシャルお楽しみ会 (06/12/23)

長尾副館長が、奥様の協力で作りましたドラえもんを着ぐるみを着て司会に会場案内に大活躍。大型絵本や人形劇、工作を楽しんだ3歳くらいの男の子「もう一回ドラえもんにあいたいよ〜。」

図書館友の会けやきの仲間になりませんか 知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。
赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。
映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、
「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。
図書館の現状を調べたり、提案も。 ニュースレター「けやき」を発行。

ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方
TEL/FAK 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番
口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

- ・10/28.11/25.1/27.2/24 (第4土曜)
図書館おたのしみ会に協力
- ・12/8.1/26.2/16 絵本学習会
- ・11/30. 12/7.14.21. 1/11.18.25. 2/1.8.15.22
3/1.8.15 (毎週木曜10:30-12:00)
絵本コーナーで「あかちゃんに絵本を」サポーター活動
- ・12/4.1/9.12.2/5.3/5 (第1月曜が基本)
事務局会議・図書館とのミーティング

けやき情報板

絵本コーナーの飾りを作る会

日時：3/24(土) 午後2時より
場所：左京合同福祉センター3階会議室
(左京図書館の上階)

テーマ：「一本の木に春が来た」
絵本コーナーの壁面に飾られている作品は、この会でみんなで作ったものです。

子ども読書の日記念 お楽しみ会

日時：4/28(土) 29(日) 午後2時より
場所：左京合同福祉センター3階会議室
28日 音楽つき人形劇「ピーターとおおかみ」他・缶バッジづくり
(下鴨小学校PTA他)

29日 小学生によるお楽しみ会
(養正小学校児童)

編集後記
役信で離学の者画かま追す▽大きまどら生あと話か▽
割と、宮経はも上げたわれ図きのせ考何かりつに？今
を集この験京有映に原れば書く様んえかしましては紙号
実いこ内が都り会な点る目館開々かて新たし示今面の
感のて部な在`はりに日先友いな？いしいた唆後の座
し場もをい住盛他ま立々ののて活図るいと。にの関談
まと図取桂者会のしち。ス会い動書方ご思新富け係会
し書材離で。区た返今ケ活まの館、とい年むやでい
たて館し宮も上か。る号ジ動す扉友一をま度もき、か
ののたやあ映ら三よのユも。はの緒始すののの割が
(大情作修まさの月い特1、(い会にめ。活も活愛で
りき報品学りれ参のき集ルときつけやた春動沢動しし
)な発 院見た加映つはにも)もやりいかに山にたた

◇けやき 第24号 2007年3月19日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん
カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101 永井方
TEL/FAX 075-721-2625